

# 岩手大学社会貢献事業検討会への招聘参加

須惠耕二

電気情報技術系

## 1 はじめに

大学における研究開発に携わる技術職員は長年の業務によって多くの技術シーズを持ちながらも、それを大学外に積極的に提供する手段と機会は少なく、また実現に向けても多くの調整・労力が必要である。

この度、技術シーズを社会貢献に活かすべく検討を重ねてこられた岩手大学技術部より、検討会への出席について招聘を受け、参加する機会があったので報告する。

## 2 岩手大学社会貢献事業検討会

この度招聘されたのは、技術開発シーズを社会に提供することを目指す検討会「岩手大学実務研修採択プロジェクト」である。同大工学系技術部の千葉寿技術専門職員が代表を務める少人数体制のプロジェクトで、検討は数年前より続けられている。

本検討会の特徴は、技術部のみならず事務担当部署の職員もプロジェクトチームに加わり、大学としてどのように技術シーズを外に出せるかを技術・事務双方の立場から一緒に検討を行っていることである。大学の運営交付金が年々厳しさを増す中での本気が感じられる体制といえる。

招聘に至った理由は、筆者が5年前より継続している盲学校向け学習支援機器の開発と全国寄贈による社会貢献プロジェクトの取組みによる。平成27年3月の第10回九州工業大学情報技術研究会で、当方の技術発表[1]を聞いた千葉氏ら関係者より多く質問を頂いた。その後の検討を重ねる中で「更に詳しく話を聞きたい」という話になり今回の招聘に至ったと聞いている。

他大学より招聘されるということは大学技術職員として稀であり、大変貴重な機会といえる。そのため、拙い経験からでも伝えられることは全て話すつもりで参加させて頂いた。

検討会は、以下の日程と内容で行われた。(岩手大学の出席依頼文書より原文のまま引用)

開催日時： 平成28年2月9日(火) 午前9時～午後5時

場所： 岩手大学工学部 3号館330室(電気電子・情報技術グループ)

目的： 岩手大学の技術職員が持つ技術シーズを社会貢献に活かすための方法と問題点について検討し、実現に向けた方向性を見出す。

社会貢献活動を全国展開する熊本大学工学部 須惠 耕二 氏を招待し、その手法を学ぶ。

予定： 2月9日(火)

9時 開会の挨拶 岩手大学技術部 工学系技術室長

検討会(I) 「本学の技術シーズと社会のニーズ」

12時 昼食

13時 事例報告 「熊本大学における学生協働型社会貢献活動の全国展開」

発表： 熊本大学工学部技術部 須惠 耕二 氏

- 14時 検討会(II) 「本学における社会貢献の方向性」  
 16時 意見交換 「技術職員の職務：今後の発展性について」  
 17時 閉会  
 18時 交流会



図1 事例報告の様子

検討の内容は、現在開発中の技術シーズから新規性のあるアイデアまで多岐にわたり、双方の信頼と守秘義務の下でオープンな意見交換を行えたが、知的財産に係る話が多いので本報告への記載は控えさせて頂く。

その中で、どのように技術シーズを社会に提供するかについて、筆者は全国の盲学校に対して広く学習支援機器の提供を行えるようになるまでの経緯を報告した[図1]。これに対して、全国的にみても類のない取り組みであり活動実績も全国に広く、その展開手法について取り入れたいとのことであった。

熊本は遠く招聘にはそれなりの経費が発生した筈だが、後日改めて出席者から発表資料を勉強したい、との連絡を頂く等、招聘に報いるだけのお役に立てたのではと思う。

### 3 まとめ

大学を取り巻く環境は年々変化し、特に地方大学にとっては厳しさを増すばかりである。技術職員がその経験と情報を、組織の壁を越えて交換・共有することが進めば、自分にはない引き出しを他から効率よく得ることが出来るようになる。

今回の参加を通し、私自身も岩手大学の熱心な取り組みから多く学ぶことが出来た。今後も双方で交流を深めつつ、大学人として最大限の働きと貢献が出来るように切磋琢磨したい。

#### 参考文献

[1] 「全盲児童用学習支援機器の開発と全国的な社会貢献への展開」

須惠 耕二 第10回情報技術研究会予稿集 pp.1-2 2015年3月